

(2017年1～3月)

## 1 治安情勢及び一般犯罪の動向

### (1) 北部での主な事案

(ア) 2月8日(水)午後、ゴラン高原(イスラエル実効支配地域)にシリア側より、戦車砲が打ち込まれた。これに対し、イスラエル国防軍による報復攻撃が実施された。

(イ) 2月14日(火)午後、ゴラン高原(イスラエル実効支配地域)にシリア側より、迫撃砲弾が打ち込まれ、開豁地に着弾した。これは、シリア内戦からの流れ弾とみられている。

### (2) 南部での主な事案

(ア) 1月15日(日)午前、ガザ地区からロケット弾が発射され、イスラエル域内との境界の開豁地に着弾した。これを受けて、イスラエル国防軍による報復攻撃があった。

(イ) 2月6日(月)深夜、ガザ地区からロケット弾が発射され、ホフ・アシケロン行政区(ガザ地区に隣接)の空襲サイレンが吹鳴、ロケット弾はイスラエル域内開豁地に着弾した。これを受けて、イスラエル国防軍による報復攻撃があった。

(ウ) 2月8日(水)午前、シナイ半島からエイラートに向けてロケット弾6発が発射された。うち3発が迎撃ミサイルにて撃ち落とされた。

(エ) 2月20日(月)夕刻、シナイ半島から2発のロケット弾が発射され、イスラエル域内開豁地に着弾した。

(オ) 2月27日(月)未明、ガザ地区からロケット弾が発射され、シャルル・ハネゲブ地域(ガザ境界より約10km)の空襲サイレンが吹鳴、ロケット弾はイスラエル域内開豁地に着弾した。これを受けて、イスラエル国防軍による報復攻撃があった。

(カ) 3月1日(水)深夜、ガザ地区からロケット弾が発射され、ホフ・アシケロン行政区(ガザ地区に隣接)の空襲サイレンが吹鳴、ロケット弾はイスラエル域内開豁地に着弾した。これを受けて、イスラエル国防軍による報復攻撃があった。

(キ) 3月2日(木)午後、ガザ地区から同境界付近をパトロール中のイスラエル国防軍車両に向け発砲があった。これを受けて、イスラエル国防軍による報復攻撃があった。

(ク) 3月15日(水)夕刻、ガザ地区からロケット弾が発射され、ネゲブ地域(ガザ境界より約15km)の空襲サイレンが吹鳴、ロケット弾はイスラエル域内開豁地に着弾した。これを受けて、イスラエル国防軍による報復攻撃が

あった。

(ケ) 3月18日(土)午前、ガザ地区からロケット弾が発射され、ホフ・アシケロン行政区(ガザ地区に隣接)の空襲サイレンが吹鳴、ロケット弾はイスラエル域内開豁地に着弾した。これを受けて、イスラエル国防軍による報復攻撃があった。

(コ) 3月22日(水)午後、ガザ地区との境界フェンス越しにて不審な行動をとっていたガザ在住パレスチナ少年に対し、イスラエル国防軍の戦車より砲撃、同少年は死亡した

### (3) 一般犯罪の動向

イスラエル国家警察の統計によると、2016年の一般犯罪の発生件数は、329,774件で、約1分30秒に1件の割合で発生している。犯罪発生率を人口比で日本と比較した場合、強盗は約7.9倍、性犯罪は約9.3倍、放火は約43.3倍、誘拐は約40.7倍と凶悪犯罪の発生率が高いことが特徴的と言える。

## 2 殺人・強盗等凶悪犯罪の主な実例

(1) 1月3日(火)、ハイファ市(テルアビブ北約100km)の路上において2件の銃撃事件が発生、1件目の被害者はイスラエル人男性(裁判官)で重傷、2件目の被害者もイスラエル人男性で、搬送先で死亡した。犯人は後刻逮捕された。

(2) 1月9日(月)午後、テルアビブ市近郊のアズール町にて、路上に駐車してあった車(イスラエル人有名女性歌手所有)が爆破された。負傷者は、いなかった。怨恨犯罪とみられ、犯人は後刻逮捕された。

(3) 1月20日(金)夕刻、テルアビブ市内の高層アパートメントビルの地下駐車場で銃撃事件が発生、イスラエル人住人と警備員が死亡した。マフィア絡みの抗争とみられている。

(4) 2月26日(日)、北部の町ミグダル(テルアブ市北東約100km)において、母子(母、子2人)3人が刺殺、子1人が重傷を負う事件が発生、後刻容疑者として父親が逮捕された。父親の精神疾病が原因とみられている。

(5) 2月28日(火)、ハイファ市(テルアビブ市北100km)の路上にて2件の銃撃事件が発生、1件目の被害者はイスラエル人男性(宗教活動家)で重傷、2件目はイスラエル人男性で死亡した。いずれも怨恨関係で、犯人は後刻逮捕された。

(6) 3月25日(土)夕刻、ロッド市(テルアビブ市南東約20km)にて、住宅に覆面を被った何者かが侵入、母親が家族の目前で銃撃を受け、重傷を負う事件が発生、犯人は未だ逮捕されていない。

(7) 3月29日(水), ティベリア市(テルアビブ市北東約100km)にて, イスラエル人男性が元妻を殺害後, 妻の頭部を携行し歩いていたところを警察官の職務質問により拘束・逮捕された。元夫の精神疾病が原因とみられている。

(8) 日本人の被害の報告はない。

### 3 テロ・爆弾事件(含未遂)発生状況

一昨年10月以降, イスラエル人とパレスチナ人との間の緊張の高まりを受け, エルサレム旧市街を含む東エルサレム, ヨルダン川西岸地区等における治安が悪化した。2016年3月以降鎮静化の傾向にはあるものの, 引き続き予断を許さない状況が続いている。1月以降の主なテロ及び同未遂事案は, 以下のとおり(ヨルダン川西岸地区を除く)。

(1) 1月3日(火), イスラエル保安庁及び国境警察は, 西岸地区における合同捜査にて, 市民及びイスラエル兵士を狙ったテロ攻撃を画策していた疑いで計34名(内12名はハマス・メンバー)のパレスチナ人が逮捕され, 自動小銃を含む大量の武器が押収された。

(2) 1月8日(日)午後, エルサレム市において, イスラエル軍兵士の集団に対し, パレスチナ人が運転する大型トラックが突っ込み, 4人が死亡, 17人が負傷する事案が発生, 犯人は兵士によりその場で射殺された。

(3) 2月9日(木)夕刻, ペタハ・ティクバ(テルアビブ北東約7km)のマーケットにおいて, パレスチナ人男性によるナイフ及び銃を用いた無差別テロ事案が発生した。これにより, 7人が負傷, 犯人はその場で逮捕された。

(4) 3月13日(月)未明, エルサレム旧市街ライオン門付近において, パレスチナ人男性がナイフで国境警備隊を襲う事案が発生した。これにより国境警備隊員2人が負傷, 犯人はその場で射殺された。

(5) 3月26日(日), イスラム原理主義組織ハマス幹部が殺害されたことを受けて, ガザ地区への出入域検問所が閉鎖, また, 報復として境界付近からイスラエル側に対し狙撃が行われる旨報じられた。

(6) 3月29日(月)午後, エルサレム旧市街ダマスカス門付近において, パレスチナ人女性がハサミで警察官を襲う事案が発生した。警察官に被害はなく, 犯人はその場で射殺されました。

### 4 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人の被害の報告はない。

### 5 対日感情

基本的に良好であり、特段の変化は見られない。

#### 6 日本企業の安全に関する諸問題

JICA, JETRO及び日系企業関係者に対し、不測の事態に備え、緊急連絡体制の整備・訓練を実施。また、出張者等が当地を訪問する場合は、「たびレジ」への登録を促すと共に、短期間の滞在であっても連絡先を当館へ通報するよう求めている。

#### 7 日本人安全対策のために取った具体的措置

(1) 以下注意喚起につき、一斉メール（在留届及びたびレジ登録者宛）及び当館ホームページに掲載を行った。

(ア) 3月3日：春の海外安全強化月間について（海外渡航時の安全対策強化）

(イ) 3月29日：「土地の日」のかかる治安悪化の懸念（注意喚起）

(ウ) 3月30日：ペサハ等休日期間に海外に渡航される方々へ（注意喚起）

(2) 以下日時に「たびレジ」登録者を対象とした注意喚起メールを発出した。

(ア) 1月5, 12, 19, 26日。

(イ) 2月2, 9, 16, 23日。

(ウ) 3月2, 9, 16, 23, 30日。